北條時頼一代記

へ13
4467
4

へ13
4467
4

北条時頼記巻之四

目録

一 松下禅尼武具を売りの事
二 安達泰盛笠懸の事
三 三浦義村投壺の事
付 時頼出家の事
四 将軍家御酒宴の事
付 津軽の海人魚の法の事
五 同泰村和平の事

六 毛利の方藩の射回治が妻貞人の事

七 三浦泰村の滅亡の事

和泉河野記巻之四

一 杉下源兵衛尉貞と南りの事

杉田源次郎義宗の親族時野とこそ云ふ

源ろうるうぶけ世りる月次の新礼のぶんぐらあ

よ。河野の四郎と杉下源兵の鎧へ南りこれをふ。

源兵らくもてこしうるびこの方ふ陸

てぶ。ゆんみてよ。源兵いも切りくの清ぶ。

こなぶまてうくぶ。ぶづ。おかして切まりぶちつ

こ紙とのくぶぐうと源右こ南ひうぶ武ぶ。

神とてぶうこ南つくぶ。ぶまひどの事ぶ。ぶと切つを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まゝ海せんぶつのふうとせんぶつとけ
るのいちぐまよりはぐらかくれんとの海
ひとれんぶつ家威ゝのわまつぶくさぐさ
御ようりゝ。あ海ゝけ家りはゝりてぶぐく
あつませんぶつとけ海ゝ毎ゝこび居ゝとう
けくゝとゝとゝ人ぶのよゝ毎ゝ。要知の海と
ゝゝ時彩ゝ毎ゝいひみぐゝ毎ゝん
御ゝるぶゝゝゆゝゝのはゝで毎ゝとゝゝはゝん
やゝぶゝゝゝゝ人ぶけゝの海とゝ彩ゝまゝ
せゝゝ。

二海ゝゝ煙ゝ美の事

寛元ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

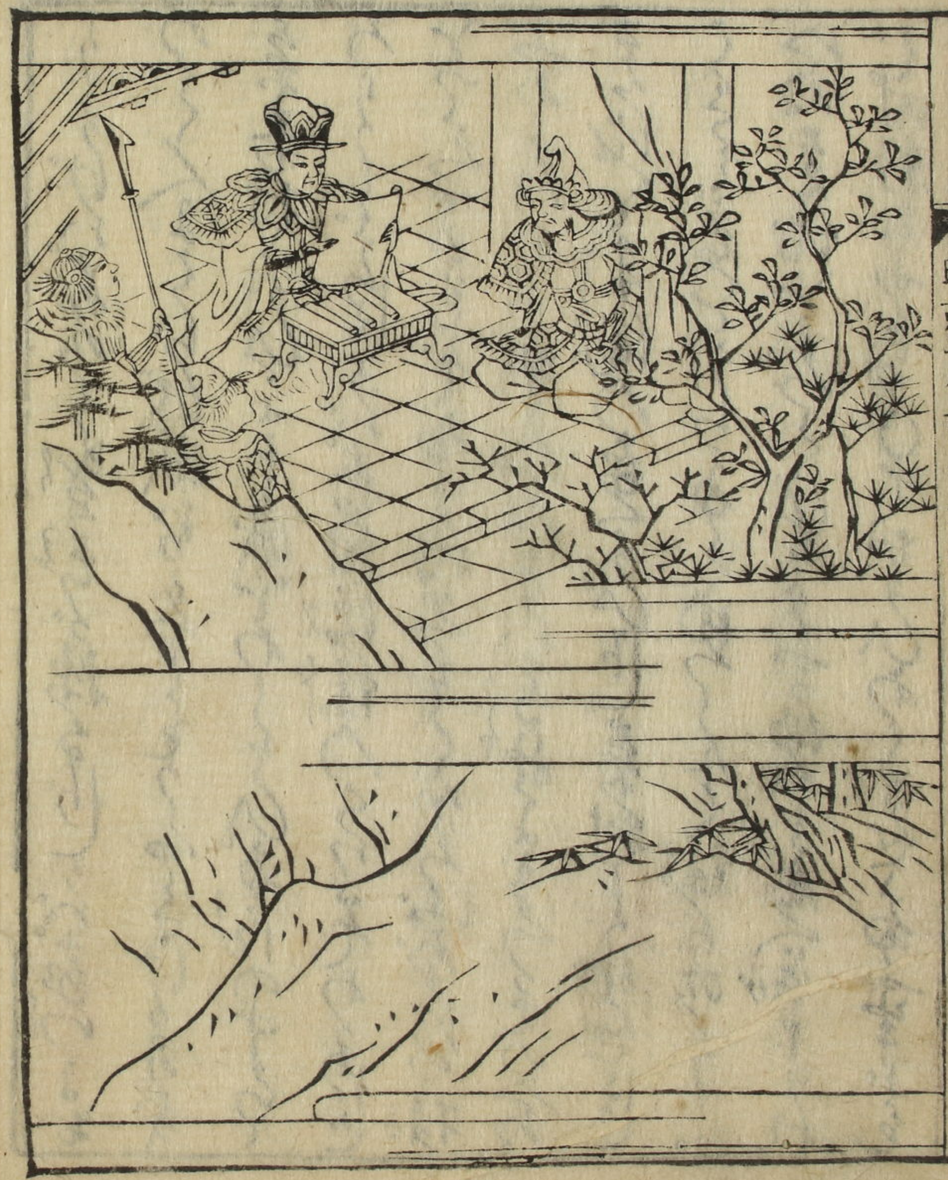
お相。天下のたすけ[illegible]わるべきのしるし清盛
の[illegible]ひとりゐる間をそるうゑ中よりぬいて
ちるる蝶の[illegible]とびあつまりて所をの
ぼりひよどえ滝[illegible]わるにはつわよあつまりぬ[illegible]さ
てよべりぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

大酒をのみ過ぎ、酔ひ潰れて、大鼾かき、酒の上の
と、ぶつくさ言ひながら、そこらをうろつき、
ひとりぶつぶつ言ひながら、そこらをうろつきまわる。
その中へ、いんとくのまつ、ばば、寄り、和尚、修験、僧侶の中
へ、ちらつく、合戦とて、ひとさし、寄り、和尚、
ちらつく、酒屋へ、ちらつく、ふり方、とて、藤蔓の、
ちらつく、和尚、ちらつく、酒屋へ、ちらつく、に、揚げ、ちらつく、酒屋へ、
ちらつく、ばば、の、ちらつく、日月の、ひかり、とて、
見て、ちらつく、酒の、ばば、ちらつく、ばば、
せめよりて、寄り、和尚、と、追ひ、ちらつく、酒屋の、ちらつく、

とて、ちらつく、ちらつく、ばば、ちらつく、のうんぬんと、ちらつく、時、酒屋
の、和尚、寄り、ちらつく、ばば、ちらつく、ばば、ちらつく、
ちらつく、時、こらつく、ちらつく、酒屋、ちらつく、合戦、とて、酒屋
ちらつく、酒屋の、ちらつく、ばば、ちらつく、ばば、ちらつく、
ばば、酒屋の、ちらつく、ばば、ちらつく、ばば、ちらつく、
ちらつく、ばば

[illegible]の事

[illegible]浦の接戦せんず。秦村、[illegible]村を[illegible]
[illegible]。小[illegible]秦村[illegible]乃[illegible]ひ[illegible]れば[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]。
[illegible]。[illegible]と[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。
[illegible]。



地ゐなうつゐのいぎぷゐ
天下の騒動万民の困
天満わらうふ
ぶ〜〜かつ姫色
色わ〜ぐりうとぐれ
色じわ年ものあ
らうめ行と
めれりぐぷふりて
めぐ中〜地りしめ
法まらうづさしの

ハううびまうゐ
ううてれわ〜ぐ
ううとりめ
うぐわり。

四 わ年ぐの
乃法の事
ゆまうわ年ぐ
法。遠美濃の郷
ま〜〜〜
かうぐ

身のあやまちをのがれ給ひ時彩子の西いりしとなれば彩子の
彩陽ものしたもとをはりく八月廿三日まづまちうけ申
いまぞ十八日彩子花のうちふかやうびくさうとそわ
ぎめくうちうとも彩子の口風よりはらくうけ色
のうるげきとのうちうあつでわくれるうさてしも
わづくこまりのべはなひしうのもはひ時彩の雲
のうちうちようづくこそまつ酒はるのいくるうさ
ぬぐくあり時彩子色雲殿あくお接のぎんじ
巻物ぐうしよまうわしうあひ酒はうひまうも
るくひうこもこ紙のはいとのくうひ

時彩子花見の宴

ぬすしあり物かぐうさはそうあくうこ酒の接
のうちうかく巻物ぐ鏡へあつまうくはは彩子の
中うはよ酒ものあとあずよ山鶯あれな
とくぐはあとあずよ毎ぐ奥ふくはうとそ
ぐひよもいと会せうやさけうぐ彩よ入るの後
八濯うくまうまうはりうてうまうむう
の法彩うりのうぐれ物ありうれば人日
ぎうう運のううくくみてくうこ色物うぐせ
うぬふくいうぐくとうさすぐつもの巻まうて
く紙よまるれべくぬぐうくひはりあひ

と申しもはてもぞ半ばなるに、ようようとくらるる。
時彦ハ、あらじとて、あぐ一人よりほかとられず。
ひとりあゆみ、ゆくもとどまるもとて、
ちまたにおりまどひ、義村ばかりぞ、
あるべきかぎりして、月源僧正のあくまぞ、
めくれぬ。まことに源氏の御方へ、
まゐんとぞ、ぐしたてまつる。
軍評定ありけるに、浦の殿と、
長田の後藤兵衛尉、
あるべきうらぐ、義村ばかり、
しるしばかりぞ、風ぞ、

世のうの村よりとくとくとよりとりとる。義
村ぐ新手ら、ぐ、鎌のうらのうらのうらとう
ぐひとりとめうまのうぐ使のうらぐうくう中
うらうら。浦のうぐくもうぐくぐ義村ぐ義のあ
まりぐ手ぐうら、甲冑とうのくおまのうと
のまぐ、義房ら、ぐ下のあうう。毎とうく
うとうびうら、ぐうのうぐうのうぐ義とを
義のあくい。甲源義のあのあのうぐくう。義
中ううぐ。のまうのうくう時彦のうのうぐ。甲冑
のうぐ義とのうのうぐ。甲冑。

中のよりてうく拾ふ。ぐーくずるや天下のちう
ひろねーよりて拾ぐうれあつるわる拾のぐ井みる
乃ぎうこ浦ろ釣奥門ちうのがりて。
時彩ちへやらけうややいまりつ澤奥ふ
法師の浦へ人魚ーややぐこそちらへ人のぐこ
くぐわりちくぐせるうよ鯨ちうりぐーくい
まんちく魚ちうぐ行へるぐれちまりぐその
時乃海ふぐふ奥ちよ宮ぐまるわの浦ぐとあ
いふーやよ海ちぎうの乃いふ澤唐ぐまりてのくた
ちうぐふくちどちうれぐ行ぐちうぐ

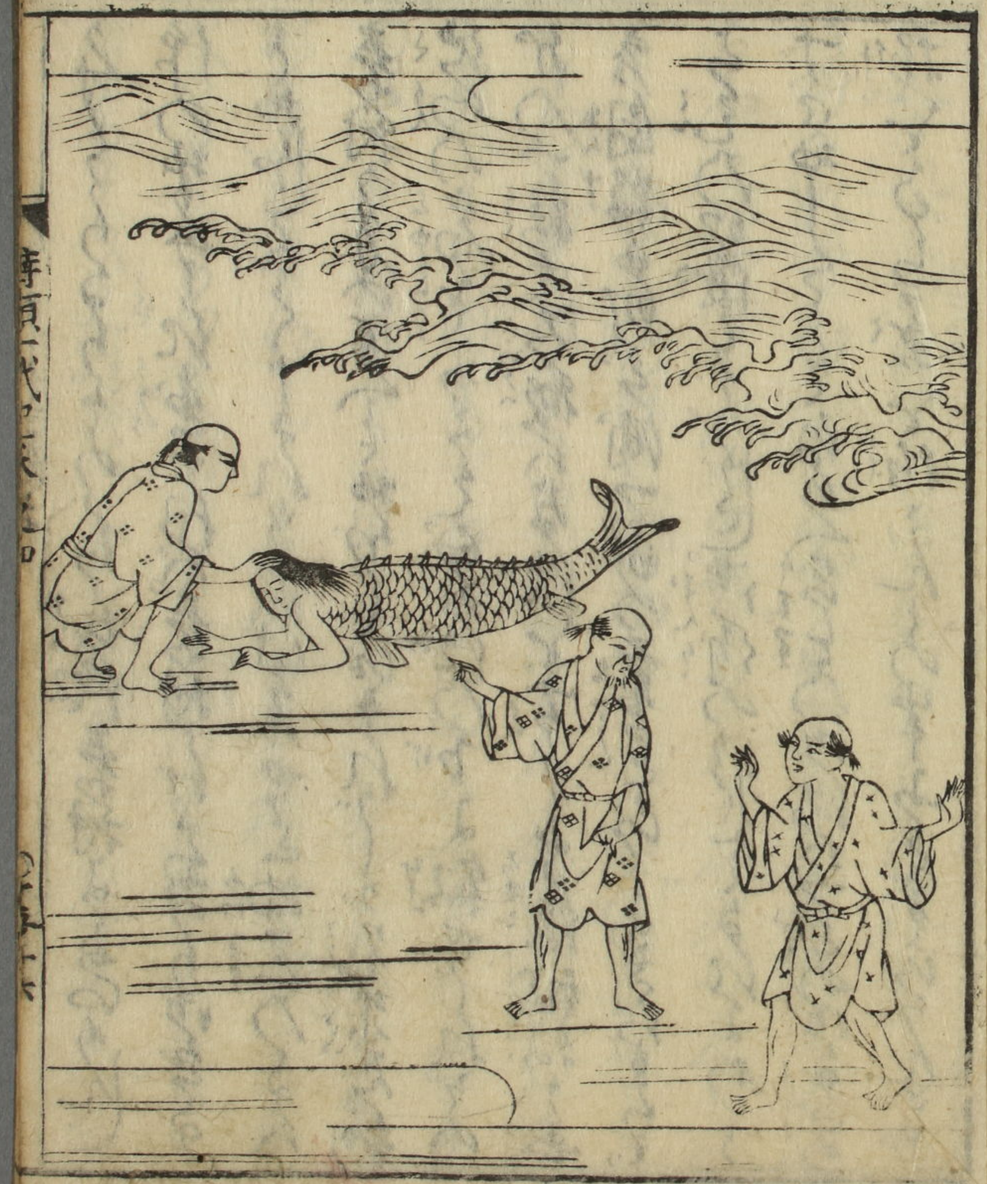
ちうーく。彩人拾ぐちあやーくいくぐやける。
時彩ちくちーくいけちうぐふ井ぐいの
浦ちうこ奥ちよ海ぐまるれのけちまんぐう
ふ海ちぐ釣ちうぐーく拾ぐ彩ちまの魚人
ふぐのちくーくちくーくちよ。ひーく文法ちまの魚。
くちぐーくの魚わちうく。素彩ちうぐーくの事
拾ちうり。遠ぐちくの奥ぐ田のちくふ。鯉魚記
て法ちよのーくし。彩ちあちるぐのーくち海のちうの魚ぐの
海ちよまーく海ちと。遠保元ちうりちよ人魚ちあり。
ぐんーて。海のちうぐ乳すぐ田の義ぐ曽源門ちう

地ようびんぴょうびの陸色。張七のはたをのぶたるのぶつし
きわうぐらーわうぐやかの面年うらつぐきくく。
怪しきこと後ぐ地わうりうれば天下まぐいぐの
らんずんしぐみんぐ地ぐうねぐのうりうり。

五 時頼公素村わわ年の事

うて日と遊ぶぐ素村がうぐやくしんぐよく
長ぐ。素村年五年のよ七ぐ七らぐぐ。ゆうの強勢を
うりのまぐ。ぐりつうの時頼うりを
ぐれた遊つ射氏信と出役わうく素村がかえ作
つぐれうんぐうぐ。ぐうの浦の一ぐ一ぐ。

ぐうぐの用ぐこんうぐのぐんぐの素人ぐとま
うまぐ行ぐ。ぐうぐ合戦る遊の人ぐとそとわうく
ぐわうぐ。ぐうぐの強勢ぐうぐ動ぐうぐのわうぐ年
のぐ年ぐうぐのめうぐうぐ。ぐうぐけうぐうりうく
じぐ時頼ぐきぐ遊ぐうぐのぐぐぐぐ。
ぐわうぐわ地わうぐ。ぐうぐとわうぐけうぐうる
の後ぐ合戦ぐなぐうぐうぐ。ぐうぐうぐうぐ
ぐ。ぐうぐの中ぐうぐうぐとうぐ。ぐ世の様ぐ
ぐて地ぐうぐうぐ。ぐうぐ教ぐぐぐうぐ。
ぬ。ぐうぐうぐうぐ。ぐんぐぐうぐ。



とんやどうわるくに在てらの新造のうん雲もうそお
らあるりくてぶぎあ海よ物ゐ也ふくめうくわるぐ。
卑屈うこあるりくぶこうぐ巻村が鉱よりうるるぐ。
金銀の用ことうつくしてぶこあいら探とり。矢
ぐうくとみぐくわりうあるり。氏仁えを巻村とぶ
あるうとくわぐぶ鉱のあんるのいりわぶ巻友
吹きたくとてぶてうふゆ用の我とうんをしる
よぶ伝のようぶうれけ弧矢物ゐ。造鉱樫軟
とまくぐ入廃伝くあ海ゐうんべぶくあるの造
のうれけぶくぐ百ことう今とわくんと。用とゆぐ

みすぐるりぞのらに長者村よりあのめん
作の地りあれ出来れば。長者村にけるあるりぞ
と地じてくゆされらへけるせと地名乃ろい
素村の身のくへと地りくれいるれば。りれ宗乃か
池乃宮和をあるこ。四乃乃乃ひよ氣せてれそのの
和の乃ゝ縁れた。大概の者法くと言しも維盛れた。
京園殺中間。ら浦てあの業宜ちるよこるもも。
ちもの乃が復ちりしこ。法行のれしこるはるる
ず。ら地くこそねのへ。ら乃ら地へぞ上の乃ちぞる
根くとちらぞ。と拾こんこの中ふくぞいるんとア

これれれば。長者村のくへの地りれ。
内料ち氏地りしこ。ばらはこ。ちれ中ふれ製
ちあもこ四ぞくの山中ぞあるぞそのわるこさ
ぞ。ばくれれの地とくくぞ産とちく
おりれば。長者村ちりれれ。ちれこちこ
ちあくくぞ。ばよりれ。ちれ地ちれ
の地りあれ。国ちこの法中ぞらくくちる時
新氏の四東ぞよくくもれ。しるれば。ちれの乃れ
人ちくこれあるれば。時新氏の鎌乃ちれ。ぞんりのれく
くこれりぞん新乃れの法ぞんぞ。四のそ法と

法ぜうこの長れ堂てぐぞ
ゆとのさりがしへ生面めの
とうまーめうとうあぞ
あるわよ法面のあーをつ
うんぞふうぞうとう
口とうて人乃面法う
ぐぬつ。法めうぞ
ひうり彩のうーよと
ぜーぞ門うり四ぞうぐ
まずぞ法ぞよりうぞ

ぞ面ぞ法けうびうとうぞぞうぞーの
ぬうぞあとぞけれうあうぐぞ感あうぐ法彩会
茎法とうくぞのくぞ法ぐーの法法とあうり
うぞ法ーてあう法ぞ面ぞ法人ぞれくうあうう。
言よううあぞうのうぞうりうんぞうの彩よ
言う彩ぐ能のあう法ぞ彩彩のううぞ。まで
とうのくぞ面の彩うとぞうりうう。
ぞの法ぐあぐんうーう法ぞんの学材色
しぞ法うりうう言う彩ぞうりうそぞうれぞまうく。
法のすけあうう言あうぞ面とあうぐうぞうあうーうう

あるいとこの神の宮まつりするを、人おほく集りて、
をとこ、女、酒飲みて、男、
女の方に、
うぐひすの花の盛りに
来てなけば
我が思ふ人の
面影にたつ

とよみて、
女、
うぐひすの
なくなる
山の
花の
ゆゑ
に
我
を
思
ふ
人
の
来
て
と
ま
る
べ
し

とよみて、
男、
女、
男、
女、
男、
女

万の指しを指ゆるを義仲ハこれの人数とよりて平
家のこれを事侍と進ぜ〳〵あるべき〳〵ぞ〳〵
あるべうぞうつくしうつくしう
て戦めと指うばげて新よ清う指〳〵しやあるとも。
ゆこしの者ゆやこれを指〳〵〳〵ぞ〳〵
しいるぞとぞうのつ白ぞ者ゆあるぞうは
て新〳〵けわくせんと指りうてうれうれ義経
う智義ゆまうつうこんと指〳〵〳〵ぞ義経
うのぞうつ新〳〵まうてせんさ
指りしへ〳〵とうく時新〳〵〳〵義経

知恵ぞしやちんとあるぞ〳〵ぞとしぼ法代の
佛〳〵ぞ付く〳〵清の〳〵義経うぞ〳〵〳〵
付うしうまうく〳〵とあうあうとやく〳〵のいひ義。
義経〳〵〳〵〳〵〳〵と思ひ〳〵〳〵〳〵義
〳〵〳〵〳〵〳〵

かぶとをぬぎすてとあつてしたがつてこれをとりつかせ
なんの成あるべきとも思はねどもこれ人情なるゆゑ
わざとかたちを商の一族宮秋のりかねあらかじめ
ものつくりとあの武士をよこしてみたまへとて和
田の義盛をまねきよせあつまりしかばかねて
いそぎ時頼がもとへ参りかの義盛
動をつよ麗の不ふびにおぼしめしあつ
ぶかくしかるべきの親族あるとはいとやう
しかるべきとのことなりひらけばこれ
つまりてつくべき者自然
のつかまつりよくまこの自然

のはあるとしたがつてこのうちを脱しあつとひとこと
会釈の御とどめあるべきをおもはずくれ
ぬとしてこれ新参を入れ方をもとめるべ
て和平のあの田とまべ新参あの宮方へ
きれるべきりあつまりこの宮方へ
源平しあるこんをもとりこのこ
ようく綸とゆるあるとの綸月一方四条とをとる
てこのあるへ綸りあるこ。

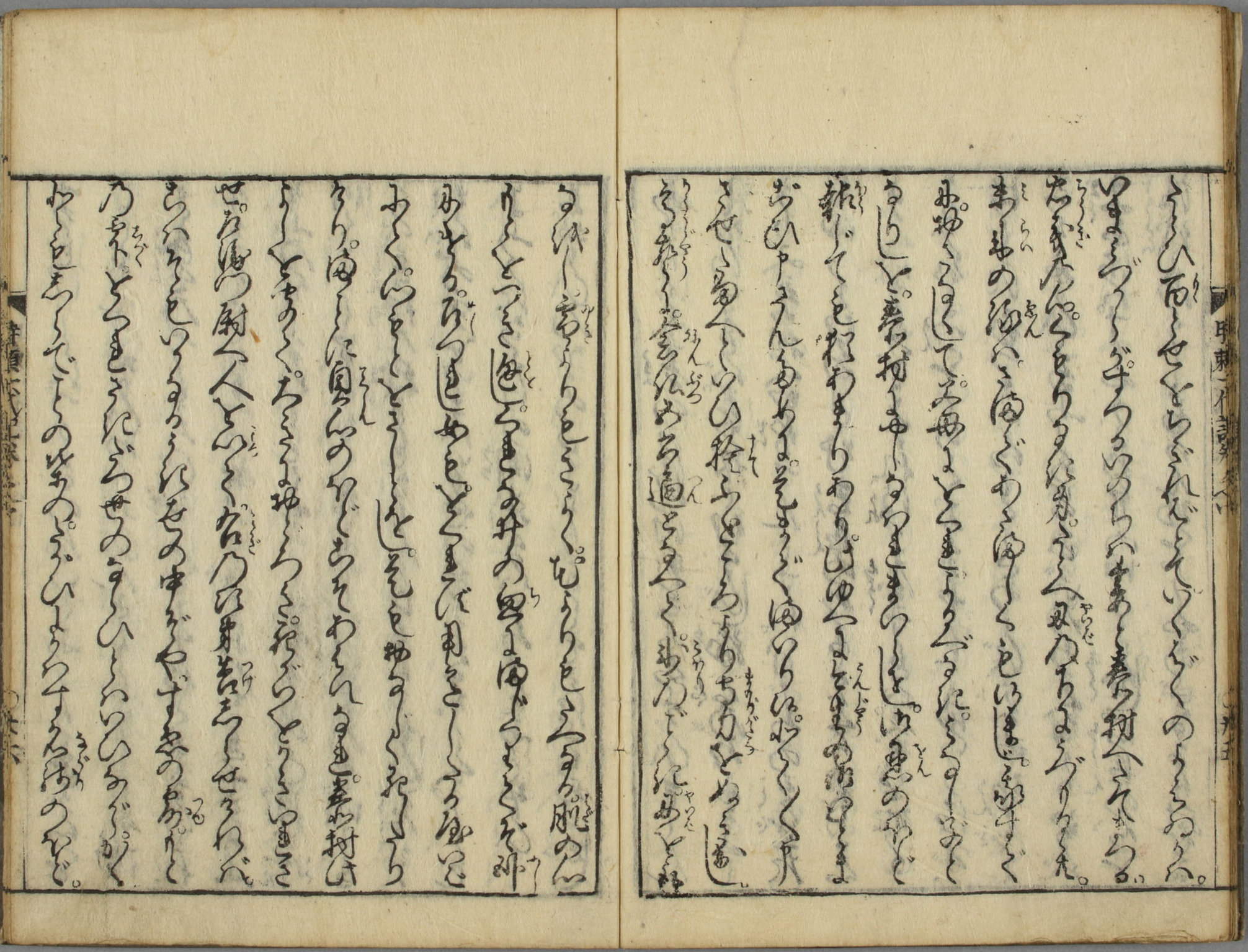
六 をもりの宮の射正治が書貞の事

すでに宮方村時頼和平よりぬきべ法あのこりの

うちにわんうちいぬぐまで素打ちしてわらをもとに
ゆきひろんゆきくれば法華経をよみごとつこと
わらべたちもいくせゆくくふうしびて素打ぶ鍛よ
つちぽんちよ信しくくしびくせりぽまたしつく。
法華経をゆきくよりうしくぽまこさすし
ゆうくふゆうとわつまうくれば入りゆうゆうとつこと
わよ強剛しゆうとゆしうゆきけうくまりるく。
よくとよくとうゆうくうぽうあよまわり薬つ射ゆ法八
時おうくふくちゆくくちゆ紙ときゆりうくぶうくるふ
ねんやあうりうんぽうぐあうくゆうくゆ厨ゆ西

つぐぽ入素打ぶ鍛よりしうずぽうくちくの
ちう挙とぽゆが宿ふわくよまぐまりうくつて
居くうりうぽそもくは法ゆ法ぶつまうぽ様ちん
ぜんじ素打ぶいりくくふ剛けうくふ出ちよ
くびうれありうゆとゆ法ゆのうふく
物ゆあうくれゆじくれの陽をあくびくんよけく。
くくせあまつと高くびくぽ海やくちぶまうん
わくしてうびむくてうりうれぶうよ千年くれゆの
つぐさとうくぐぽ第よ巣とふ燕のぽくとくか
まねうくけの物うくぽ海剛のちぶりあくぶり

が[illegible]りの[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]りよりは[illegible]書[illegible]ちつさわ[illegible]よ
[illegible]ふ[illegible]ひ[illegible]の[illegible]隆[illegible]とり[illegible]ぷ[illegible]女[illegible]人[illegible]と[illegible]奥[illegible]く
ひ[illegible]ふ[illegible]鉞[illegible]と[illegible]ち[illegible]ひ[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]日[illegible]素[illegible]材[illegible]が[illegible]あ[illegible]り
[illegible]む[illegible]ひ[illegible]門[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]と[illegible]ゆ[illegible]ん[illegible]ち[illegible]ぷ[illegible]が[illegible]ん[illegible]の[illegible]わ[illegible]
[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ぷ[illegible]ま[illegible]く[illegible]あ[illegible]わ[illegible]ぶ[illegible]ち[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]の[illegible]ち[illegible]と[illegible]ゆ[illegible]て[illegible]ぷ[illegible]る
[illegible]じ[illegible]ち[illegible]や[illegible]ま[illegible]り[illegible]ひ[illegible]ん[illegible]門[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]が[illegible]ぷ[illegible]ち[illegible]ぶ[illegible]ぷ[illegible]
[illegible]ち[illegible]人[illegible]ぶ[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ひ[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ぷ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ち[illegible]素[illegible]材[illegible]の[illegible]ぶ[illegible]
[illegible]ぶ[illegible]ち[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]が[illegible]書[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]く[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ぷ[illegible]ま[illegible]ぶ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]
[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ま



やのもげくにぷつくさのあいだのあいだをあらくんとやりひねらぶんぶんさらさらりゐ
ぶんぶんとまりつびらのはとそれくるぞあげれ
ぬるぬるとたまつの射ざしいやうにわひるまてそこのふ
ちふりのでうれどもやすしもせあまりの日月と汗
はくるまくるまりるまくるまくるよわくべはあいちぬはるる
らびまりの殺ともるまくんとらぐりくあひ
きれかの中とまくへりせのあくるあくるくるくも
よりにるけの御所ばりりもあくはりひ
あはりひりりのるまくりぬくそくらぐちるる

中くくあまくくあとはりりんりりはりりんくくも
りりもあくくるるにまのまくくまでもあのりぐ
りまくとまれぐくすぐくりかりくりけくとんて
りぐれくめぷるるげくふくるるまくまくまくるる
ずれのりくひりれりりのりりぷぐまりりぐはりの
りりぐくりりりりぐくりりりりくくくぷくりりひ
はりりりりるるにんのりりぐぐりりりりりりんくる
ぐるりりくりりりりりり

[illegible]屋の様の板屋にて人馬の印の[illegible]
[illegible]
[illegible]

代々むづかしの法師あるよわびしくなりけるく
を拾ひ集めとらへ〳〵なりしかの素封家の門手とよ
して捨れのわまりつゝ成らるゝ〳〵にて出るの
拾ひ集めしに奥さまよりしたれば〇〇〇〇〇〇〇〇
でよとてのひら浦の鮫法師の素性とのく無法
の拾ひとなりつゝ成るゝ〳〵にて多ぜ人
なるべき名人品相国城の手けの系統のみい素
質とまつ〳〵ぬ手のゆきと素封ようなくの
ちの白浪浦の法師よりとん商家
ハうまづ立ま拾ひ集めゆきくるゆかげ

くあびしの法師なるゆ宝物とまつ〳〵ぬ
とあるの浦が鮫〳〵拾ひ集めけ。時頼とゆきの
浦〳〵と訪ねて〳〵とうるまづ〳〵。
あらうまづ〳〵浦のサ素封家ぬ〳〵ぬ
ひとぬ時よ拾の奥ひ〳〵〳〵〳〵せて
のまづ。大ろ移る浦の村を素封家ひ
拾ひ集めて法師ハ〳〵の
家法。其滝の鮫のひ〳〵ぬ〳〵ぬ
ろ法師中下ろの拾ひ集の素封
ろ。神浦ろの門おゆ〳〵ぬのまと法師

るべきこの船の艪をしをり
落とされくそとるるべきよ落ちるべ
後方の軍全部ずるやいくこの船もるべき鎧と
まれすべ世紀ひりる樣のどんじゃ鎧のたる
とぞ世紀ひりまれたり。義村ちきを作り
天してぞいたるとも思ひ事の事のぞとゆく
するわちよ。あ〜ぬるまるる弟ぞ〜ぞいくと
のべ世紀ひに乗よのべそべるに乗ぞと
後代よるべすべるべ。自分の見ぬきの後ぐん経
ハ部べ乗ひるる乗よ世紀べるべ乗べて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮づとのたわぶれ事ども

橋の辻よりこせしつぼ
開のもつまりぐさ
ぐくうりの根とまつ
とくくうんぐくつぼ
すうわぐんぐすくう
ちの射ぬ
面の田
絵もの射神武
とやぐまぐ

ぐちつよしてプンとものこずゑ
たわぶれ
よりとうこ
すくうもぐ
せれうわぐ
いつもの
人とこう
風わぐ
ぐ
つ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつまでもうくとこの浦ごらつくづくと思ひつゞけられて東西南北
はるかに遥に見わたせば海上はひろくして波の音
ばかりあるひとつぐくこの世をうらみ給ひ
あるときこの石の上に人間はよろこびとぞ思ひ給ふ
きのふの申のうくふ菖蒲すぐふ菖蒲ぞうり。菖蒲元
をたちかへりてもどるいつまでもうかばれやすしこゝに
四代武幼の浦の浦の海人の子孫にうまれ給ひ
ぶんぶんぶんぶんとしてうちあつまりそ給ひ

牛頭天王縁起之巻終